

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

でんとうき ぎょうじ げいのう
伝統的な行事と芸能



かんけい ば しょ
関係のある場所

いわ やま じん じゃ
・岩山神社

かいごもりまつり

かいごもり祭

新見市

高総早倉矢井浅里笠
梁社島敷掛原口庄岡
市市町市町市町市



ぎょうじ この行事について

「かいごもり祭」の始まりは、次のように伝えられています。元弘2年（1332年）に、後醍醐天皇が隠岐へ流される途中に新見市唐松の国司神社で休息しました。この時、地区の男性は、天皇を警備するために神社に集まり、女性・子どもは、戸を閉めて家にこもり火気を止めて慎んだといわれています。これをお聞きになった天皇は、たいへん喜ばれ、この神社に対して甲冑と矢1本を奉納し、また、田を置いて位を下賜しました。そのため、この地を「位田」と呼び、この祭りを「皆籠祭」と呼ぶようになったそうです。

祭りの当日は、岩山神社での神事後、杜人2人と供人1人で神社を出発し、田津川で身を清め、白装束・わらじ掛けに着替えて奥宮を目指します。鳥居に差し掛かったところで、そばにまつる国司宮の小社で白餅・栗餅・榊・弓の矢鞆などを供えてまつり、祝詞を奏上します。ここから上には、杜人・供人以外にはあがることはできません。続いて、中御崎の国司宮で麴・長刀などを供えて祝詞を奏上します。奥宮では、供人が持って上がった麴・御幣・お山銭などを供えてまつり、その後、サイコロで各地区の吉兆を占います。